

# ねこ ねこ こねこ!

2020. 2. 15

美幌町図書館長 竹花 史康

2月22日は、猫の日です。猫の鳴き声が「にゃんにゃんにゃん」と言うことで、222との語呂合わせです。

「猫と一緒に暮らせる幸せに感謝し、猫とともに喜びをかみしめる記念日」という趣旨で、1987年に制定されたようです。

実は我が家にも猫が3匹います。18歳の雌猫と15歳の兄妹猫の3匹です。人間でいえば、もう80歳くらいになるかもしれません。猫も人間と同じで、食べ物のせいでしょうか、随分長生きするようになってきました。

猫は犬とは違って気分屋で、呼んでもしっぽをふって来ることなどないと思っていました。しかし、十数年も共に生活していると、名前を呼べば「にゃー」と鳴きながらよってきますし、しばらく出かけて家に帰ると玄関で私と妻を待っています。

ただ、相変わらず3匹とも、好きなときに寝て、好きなだけ食べるといった自由な生き方そのものです。私も歳のせいでしょうか、今はそんな生活がとてもうらやましく感じています。

さて、猫と文学について思いを巡らすと、真っ先に思い起こすのは、やはり猫の視点から人間模様が風刺的に描いた、文豪夏目漱石の『吾輩は猫である』です。

そして、もう一冊、佐野洋子の『100万回生きた猫』が心に残っています。今でも時折手にしたくなる、大人向きのすてきな絵本です。



『100万回生きた猫』より